

令和6年度 入学式 式辞

冬の寒さも和らぎ、桜の花が咲きはじめ、ようやく春のぬくもりを感じるようになりました。新入生25名のみなさん、ご入学おめでとうございます。みなさんの入学を在校生、教職員一同、心まちにしていました。

また、昨年5月に、新型コロナウイルスが第5類になったことを受け、入学式をコロナ前と同じように、すべての在校生、そして多くの地域のみなさまにも参列していただくことができました。

まずは、本日の入学式を挙行するにあたり、公私何かと、ご多用の中、またお足もとの悪い中、多数の皆様方に、ご来賓として、ご臨席を賜り、新入生の入学をお祝いくださいまして、誠にありがとうございます。

加えて、平素より、本校教育活動に深いご理解と多大なご支援をいただきまして誠にありがとうございます。高い所からではございますが、心からお礼申し上げます。

さて、25名の新入生のみなさん。いよいよ今日から中学生です。小学校6年間の教育課程を終えられ、「児童」と呼ばれていたみなさんは、今日からは「生徒」と呼ばれるようになります。これは単に呼び方が変わっただけでなく、皆さんが、一步大人に近づいたことを自覚してほしいという願いが込められています。今、壇上から皆さんの顔を見ると、これから始まる新しい生活への大きな期待に胸を膨らませている様子うかがえます。逆に、緊張や不安で胸がいっぱいになっている様子もうかがえます。

どちらが正しい、どちらが間違っているとかはありません。今の正直な、そして素直な気持ちを大切に胸に刻んでおいてください。

そんな新入生のみなさんに、伝えておきたいことがあります。それはみなさんには「無限の可能性」があるということです。ただのその可能性をどのように広げるかは、みなさん次第であるとも言えます。ぜひとも、これから始まる中学校生活をその可能

性を広げる3年間にしてもらいたいと思います。

そのためにも、日々行われる1時間1時間の授業を大切に、真剣勝負で臨んでください。先生方も懸命にサポートしたいと考えています。また、様々な学校行事や取組にも楽しくかつ、全力で取り組んでください。先生方も一緒にかげがえのない思い出を作っていきたいと考えています。そして、ともに学ぶ仲間たちを信頼し、認め合うようにしてください。時には悩むこともあるかもしれませんが、先生方も精一杯相談に乗り、一緒に悩みたいと考えています。

しかも、後ろに座っている先輩たちは、これらをすでに実践してくれていますので安心してください。生徒会活動や部活動を通じて、みなさんと一緒に、このよき木津中学校の伝統を、さらに良いものへと紡いでいきましょう。

今年1月1日に、石川県の能登で大きな地震がありました。多くの尊い命が奪われ、いまだに多く

の人が日常を取り戻せない状況が続いています。お正月の家族や仲間との団らんや語らいの時間が一瞬にして奪われた大惨事を目の当たりにし、人間の自然における無力さを痛感するとともに、コロナのような未知の感染症や世界で巻き起こっている戦争や紛争を鑑みると、将来を見通すことがますます難しくなっています。ただ、何がおころうとも、「自分の命を大切にすること。そして、他人の命も同じくらいに大切にすること」には変わりありません。ぜひとも自分を大事にするのはもちろんのこと、周りの人たちにも優しく接する心を育てていきましょう。

最後になりましたが、保護者の皆さま、お子さまのご入学おめでとうございます。心よりお祝い申しあげます。本日より、大切なお子さまを本校でお預かりいたします。私たち教職員は、お子さまの知・徳・体の調和のとれた真の「生きる力」を育めるよう、さまざまな教育活動に邁進してまいります。ご家庭との緊密な連携を土台に、温かく見守り、寄り添いながら、子どもの健全な育成を図って参ります。ご理解ご協力をお願いいたします。

結びに、この木津中学校が地域に根差した暖かい学校であり続けることをお誓いするとともに、本日の入学式に関わったすべてのみなさまに感謝を申しあげ、式辞といたします。

令和6年4月3日

大阪市立 木津中学校

校長 田中 淳